

西来寺報

二〇一五年 夏
第十八号

西来寺と親鸞聖人

盛夏の候いかがお過ごしでしょうか。この西来寺報をお読みになるころは、もう七月盆のころになるでしょう。先日、西来寺小旅行が行われ、そのなかの西来寺と親鸞聖人の史跡を2・3お話しすることに致します。

先ず小田原、国府津の真楽寺様をご紹介します。真楽寺は西来寺と同じく真宗大谷派の寺院です。鎌倉時代、親鸞聖人が国府津の近くに寄りしばしば教えを広められました。六十歳を境に聖人は関東の地を



離れ京都に向かおうとしました。

しかし、それまでご教導を蒙った人々は聖人との別れを惜しんでお留め申したところ、しばらくこの地にとどまったようですが、その後上洛の意思を固めこの地を去ります。時に天台宗であった寺の住職、性順が聖人の御教えをうけて、他力真宗の御教えに帰して聖人のお弟子になり真楽寺の寺号を与えられたそうです。そのころ、同じくこの地に足を運んだ当時の西来寺の住職もやはり聖人の教化をうけて、真宗の教えに帰して西来寺の寺号を賜ったそうです。

真楽寺には歸命堂という宝物庫がありいろいろな寺宝があります。また境内に大きな菩提樹があり、その昔、この菩提樹の実をいただきました。西来寺にも同じ菩提樹が植わっています。尚、真楽寺から500メートルほど国府津駅に向かったところに聖人が庵を結んだとされる、勧堂

(すすめどう) があります。

次に、おなじみの箱根神社ですが、古来より箱根権現の名で親しまれてきました。権現とは仏が衆生を救済するために仮に神となつて現れた姿と考えられ来ましたが、明治期に神仏分離によつて箱根神社になりました。覚如上人の書かれた「本願寺聖人伝絵下段四段」に親鸞聖人がここを訪れもてなされたと言う下りがあります。なお、境内には昭和39年に建てられた親鸞聖人像があります。皆さんも箱根神社に行かれ



最後に「笈(おい)の平」についてお話しします。箱根旧街道の甘酒茶屋から100メートルほど下った所に遺跡碑があります。ここは親鸞聖人とお供の性信房お別れになった

場所とされています。御帰洛の途中、ここで石に腰掛けて4人の弟子の1人、性信房に向かい「師弟打ち連れてみな上洛してしまつたら、後に残された東国の門徒は誰が導くのか。御房はこれより立ち返つて東国の門徒衆を教化してもらいたい」と申されたところ、性信坊は泣く泣く聖人と別れ、関東に戻つたといひます。この時、聖人は自分の身代わりにと笈を手渡されと言ひます。(笈というのは中に經典などを入れ背負つたもの) 遺跡碑にはこの時聖人の詠んだとされる歌「やむ子をば預けて帰る旅の空、心はここに残りこそすれ」という文字が刻まれています。神奈川県内にも親鸞聖人や西来寺ゆかりの場所がありますね。



5月5日撮影 西来寺のユスラウメの実

西来寺を守る宮大工

3月6日、3月7日に修繕と補修の工事が手嶋工務店により、おこなわれました。

本堂の中の斗組(ますぐみ)の修繕。西来寺の本堂の中の斗組は57力所あります。そのうち38力所に「ねじれ」が生じ、巻斗(まきと)と杵肘木(わくひじき)の間に隙間が開いていました。そこで、杵肘木をひとつひとつ床からジャッキで押し上げ、開いてしまった隙間をなくし、きれいに修復しました。斗組は屋根や天井を支えるだけでなく、飾りの役割もあります。その構造は日本建築の美しさが内在しています。本堂に入られたときには、是非とも上を見上げてみてください。

本堂前の揭示板の建て替え。西来寺に来る方に見ていただくお寺の由来の揭示板を建て替えました。木材は水に強く腐りにくいカナダ檜(ひのき)。釘を使わない木組みは白木で軽快な見た目ですが、実に200kgと重厚。屋根はチタン材を使用しています。チタンは雨にも風にも強く200年保つと云われています。西来寺は丘の上の立地です。吹き上げの風の影響を考え、

土台はしっかりと設置していただきました。

他にも痛んでいた山門の柱の一部を新しくしたり、本堂の西側の障子の杵の隙間を無くす修繕なども行いました。

自然に逆らわず、陽射し、風向き、湿気、様々なことを考えながら修繕を行う手嶋工務店の宮大工さんには感心するばかりです。

平成24年10月の本堂、廊下の改修工事から3年、今回手嶋さんは専門の職人を含め7名のお弟子さんといらっしゃいました。

「新しいものも良いんですけど、日本の建築は、手をかければ50年、100年、200年と保つてくれます。たず



さわるたびに、古い本堂の有り難みを感じます」と手嶋さんは言います。

手嶋さんのお弟子さんの中にはひときわ目立つ女性のお弟子さんが一人。「女性がこの仕事を続けるのはとても大変なことかもしれないね。腕力が必要な仕事だし、手も荒れる。宮大工はまだまだ男の世界だから男性の何倍も努力が必要になってくると思う。でもね、長く続けていってほしいですね」優しく語る手嶋さんは今の建築だけではなく、未来の日本の建築現場を継承し、守っていく大きな役割を担っていました。



2015年のお盆日程

新盆 7月8日

新盆経。当西来寺で過去1年間に亡くなられた方の家族を集めて法要をします。(該当の方にはご案内差し上げています)

お盆 7月13日～7月16日

東京地方、横須賀市中心部。

旧盆 8月13日～8月16日

月遅れのお盆。葉山、鎌倉方面 全国的にはこちらの方が多い。

略肩衣をお持ちの方へ

西来寺では以前、門信徒の皆さんに、略肩衣(門徒式章)をお配りさせて頂きました。略肩衣とは、りゃくかたぎぬと読み、浄土真宗大谷派の門信徒が、仏前における礼装として首から下げて着用する法具です。仏事や法事、お寺での行事などの時に身につけていただくもので、お盆のお参りの際などにご着用ください。

